

教科	科目	学年	単位数
芸術	美術 I	1 年	2
使用教科書		副教材	
高校美術 1（日本文教出版）		なし	

1. 学習目標

- ・美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広くかかわる資質、能力を次の通り育成することを目指す。

2. 評価の観点と方法

- ・以下の観点をもとに、提出物（作品、ワークシート、振り返り表など）、授業態度を総合して評価する。

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、造形的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

3. 学習内容 [下表参照]

4. その他[科目の特徴や学習の注意点など]

- ・絵画においては、技術的な巧拙だけでなく、自己の内面を掘り下げながら、じっくりと作品に向き合い、いかに創意工夫したかを評価する。
- ・デザインにおいては、グループ学習等で社会の問題を捉え、どのように解決するかを自分なりに考え、社会における美術の持つ役割に目を向け、作品制作を行う。
- ・鑑賞においては多くの美術作品・参考作品・生徒作品に触れることで、美術の表現の多様な表現を知ると同時に、他者の自分とは異なる意見に耳を傾け、社会には多様な価値観があるということを学ぶ。
- ・美術では多くの道具を使用し、彫刻刀やカッターなど、使用方法を誤れば重大な事故につながるものもある。道具は指示通り安全に使用し、次に使う人のことを考えて丁寧に扱う。
- ・美術室に保管されている作品や、壁や棚に置かれている作品は、この学校の生徒が一生懸命制作した大切なもの。丁寧に扱うと同時に、作者の表現の工夫を感じ取り、自らの制作に生かす。

	月	単元	授業内容	学習内容及びポイント
一	4	【絵画】	アンリ・ルソー《眠れるジプシー女》	【知】作品の造形的要素からよさや魅力を感じ取り、

学 期		美術とは何か	を鑑賞、意見交換し、ルソーの経歴や作風について学ぶ。	多様な見方に共感する。 【思】鑑賞活動を通して、内観することや、価値観の多様性を感じ取る。
		【デザイン】 7種類のパフェの考察	現存する7種類のパフェについてグループで意見交換、考察する。	【思】7種類のうち1種類はデザイナーにより考案されたもの、1種類は現代美術家によって美術作品として作られたものであり、デザインや美術の持つ意味をもう一度問い直す。
		【デザイン】 オリジナルパフェのデザイン画	パフェの考察をもとに、オリジナルパフェのコンセプト、デザインを考案する。	【知】ひとつのコンセプトをもとに、意図に応じて造形的な工夫をして表現する。 【思】コンセプトを創造的に発想し、新しい、または意外な組み合わせを用いるなど構想を練る。 【主】自ら進んでコンセプトを考え、より良い作品作りを心掛ける。
	5	【絵画】 直方体のデッサン	透視図法、明暗の捉え方、タッチの入れ方など、基本的なデッサンを学ぶ。	【知】対象を捉える造形的視点について理解する。
	6	【絵画】 アクリル画演習	アクリル絵の具の基本的な使い方、混色、重色の違い、球体の表し方を学ぶ。	【知】絵の具や色の特性、対象を捉える造形的視点について理解する。
二 学 期	7	【絵画】 愛着のあるものを描く	自分の持ち物から愛着のあるものを持参し、鉛筆で下描き、アクリル絵の具を用い水彩タッチで表現する。	【知】モチーフとその環境を造形的に捉え表現を工夫する。 【思】モチーフから主題を生成し、構想を練って作品作りをする。 【主】課題の意図を理解し主体性をもってモチーフを選び、表現を深めようとする。
	8	【デザイン】 色彩と配色の基本	有彩色、無彩色、明度、彩度、トーン等色の基本、色彩調和の基本、日本の伝統色について学ぶ。	【知】色の特性や視覚的效果、心理的效果について理解する。
	9 10	【絵画+デザイン】 葛飾北斎《甲州石班沢（富嶽三十六景より）》を新しいイメージに作り替える	《甲州石班沢》をケント紙にトレースし、漁師の部分を思い思いの現代人に入れ替え、そのイメージに合った配色で彩色する。	【知】《甲州石班沢》を鑑賞し、作品の意図を感じ取る。色彩の効果を生かして配色を工夫する。 【思】加えた現代人のイメージに合わせ新しいイメージに作り替えようと構想を十分に練っている。作品の造形的要素をよく理解して彩色する。 【主】浮世絵のよさを感じ取り、現代のイメージを自分なりに想像し表現しようと務める。
		【絵画】 想像を形に	サルバドール・ダリ《記憶の固執》《記憶の固執の崩壊》の二つを鑑賞する。 画家が表そうとしている世界を読み解	【知】作者の内面世界と、それを取り巻く社会とのかかわりが表されていることを知る。 【思】二つの作品を比べることで、画家が表そうとしていることが時代とともに変化することを知り、作品

			き、作品についての理解を深める。	への理解を深める。 【主】この鑑賞を踏まえ、自由制作の構想を深める。
	11 12	【絵画＋デザイン】 自由制作 『未来への兆し』をテーマに	小学校、中学校の図工、美術の集大成とするため、描く内容、描き方等自身自身で思考判断し制作を進める。 構想を第一考、第二考と段階を踏み、徐々に練り上げる。 作品はイラストボードに制作し、完成したらパネルに入れ校内展示する。	【知】自分自身で題材を決定することで、自分を見つめなおし、社会とのかかわりについて考える。 考えた内容を具現化するためにタブレット等を用いて資料を集め、それを参考に制作を進める。 【思】第一考、第二考と進めるなかで作品の構想をより深める。 【主】これまでの美術の内容を振り返り、よりよい表現方法を模索する。
三 学 期	1	【彫刻】 立体表現の魅力	教科書、または用意した作品を鑑賞し、削る、盛り上げる、彫る、磨く等、立体作品の多様な表現方法を学ぶ。	【知】鑑賞活動を通し立体表現の多様性を感じ取る。 【思】各作品の表現意図をより深く考察する。
	2 3	【彫刻】 塑像で表す 『生き生きとした生命力』	石塑粘土を用い、動物をモチーフとして生命力をテーマに塑像作品を制作する。完成した作品をたがいに鑑賞し、意見交換する。	【知】石塑粘土の特性、制作の工程を理解し、動物の造形を客観的に捉え表現する。 【思】テーマを自分なりに考察し、構想を練って造形的に創意工夫する。 【主】立体的に捉えるという視点について理解し、作品作りに生かそうとする。